

2013年度 日本動物行動学会賞 受賞者（2013年 11月 30日 受賞）

区分（1）動物の行動に関する新たな現象の発見

鈴木 俊貴 氏 鳥類の音声コミュニケーションにおける指示性とその機能

受賞理由

鈴木俊貴氏の研究は、シジュウカラおよびコガラにおける同種・他種に対する音声コミュニケーションに関するものです。野外実験や観察により、親が捕食者の接近を知らせる音声シグナルが捕食者のタイプによって異なるだけでなく、そのシグナルに子や他の成鳥が正確に適応的な反応を示すことを明らかにしました。また、同種だけではなく他種も、餌を発見した個体のシグナルに引き寄せられて混群が形成されることも示しました。これらの研究は、音声コミュニケーションの新しい面を明らかにしたものであり、受賞に値すると評価されます。

区分（2）動物の行動に関する新たな理論の構築あるいは既存の理論の発展

高橋 佑磨 氏 「種内の遺伝的多型の進化と機能に関する研究」

受賞理由

高橋佑磨氏の研究は、雌に色彩の二型があるアオモンイトトンボを用いて、雌の二型が雄の配偶者選択による負の頻度依存選択によって維持されていることや二型の頻度の動態を、野外での観察や実験での裏付けのもとに、モデルも用いて、明らかにしたものです。その内容は学習という動物行動学の古典でもある内容と、集団の変異や動態を結びつけたものと見ることができます。この研究は、新たな理論的展開の可能性を見せるとともに、既存の理論の発展という点で受賞に値すると評価されます。

注) 業績の表題について

2013年度以前の日本動物行動学会賞では「業績内容をあらわす表題」の記載・申告が応募時に求められていませんでした。この度の公開（2016年2月）にあわせて、2010-2012年の行動学会賞については、受賞者ご本人にあらためて表題をつけていただきました。